



花 菖 蒲

初夏、花菖蒲は、湿地や水辺で剣状の葉の間から花茎をまっすぐ伸ばし、先端に大きく優雅な花卉を開きます。

端午の節句に飾る、香気や薬用の成分を含んでいる菖蒲とは全くの別種であり、江戸時代、野生種の野花菖蒲から改良された日本特産の園芸品種です。江戸系、伊勢系、肥後系に大別され、江戸錦、麗月、篙嶺の雪、舞扇など美しい名前がつけられたさまざまな品種が作られています。

花菖蒲は、アヤメやカキツバタによく似ていますが、アヤメは花の中央に虎斑と呼ぶ斑点があること、カキツバタは葉の幅が広く、葉の中央を縦に通る中央脈がないこと、花菖蒲は花が大型で、葉の中央脈が著しく隆起していることなどで区別できます。

「ほととぎす待てど来鳴かずあやめ草

玉に貫く日をいまだ遠みか」

大 伴 家 持